探究的な学習

平成 14 年度に大阪府で最初にＳＳＨの指定を受けて以来、本校ではスーパーサイエンスコースの２年生を対象に「課題研究」を実施してきました。この授業は、グループまたは個人で自然科学に関する研究テーマを設定し、通年にわたりそれぞれの探究活動を進めていくというものでした。その後現在に至るまでこの取り組みは継承され、さらに発展してきました。

課題研究

「文科」では主に人文・社会・国際系に関するテーマについて、「理科」では、主に自然科学に関するテーマについて、２年生の１年間、週１コマ（65 分）の授業時間にそれぞれの担当教員の指導の下、探究活動を行っていきます。

１年という長い期間の研究ですが、グループの中で一人ひとりの考えを出し合って話し合い、また、さまざまな調査や実験などを繰り返しながら、テーマに関連する課題の解決に一歩ずつ迫っていきます。１年間の探究活動の成果は、校内あるいは校外での発表会などで、大学の先生方や保護者の方の前で発表するとともに、論文にしてまとめていきます。

また、平成２６年度からの５年間、文部科学省より SGH の指定を受け、「アジアと学び合う―夢を実現する国づくり」というテーマのもと、探究活動に取り組んできました。成長著しい東南アジア諸国を比較文化的、経済的、歴史的アプローチ等に基づいて探究し、得られた成果を日本の国づくりに活かすことのできる人材を育成するというねらいのもと、課題研究においても文科・理科両方の生徒が選択できる文理融合型の SGH 関連講座を開設。その中では英語による講義やワークショップも企画されました。

ＷＷＬコンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定された一昨年度からは、「健康・医療」、「幸福」という大テーマに沿った内容の課題研究ＷＷＬ関連講座が設置されました。選択した生徒は地域振興、建築、健康な生活、持続可能社会などの課題について探究活動を進めています。